

第1回報告書 2021年6月  
留学先決定に至るまでの経緯

呉 悠

もくじ

1. はじめに
2. アメリカ学部留学を選んだ経緯
3. 出願材料
4. 出願スケジュール
5. 精神面について
6. さいごに

## 1. はじめに

2021年の秋から Boston University に学部生として留学することになりました、呉悠と申します。春に小石川中等教育学校を卒業し、現在は早稲田大学創造理工学部に通いながらギャップタームを過ごしています。最近はテクノロジーと心理学を融合させた分野に興味を持っており、大学ではそれらを中心に学びたいと考えています。

今回の報告書では、私がアメリカへの学部留学を決心してから合格に至るまでの経緯についてご紹介します。この報告書までたどり着いてくださったの中には今年の自分のように、「とにかくアメリカ受験のための情報が欲しい!」「海外大学の学生が受験期にどういう道を辿ってきたのか知りたい!」と考えている方が多いかと思います。そのような方々の目的に沿えるよう、ここではインターネット検索や塾などではあまり知ることができないような自分自身の出願までのストーリーと精神面について記しておきたいと思います。

## 2. アメリカ学部留学を選んだ経緯

日本生まれ日本育ちで和食が大好きな私はなぜ、わざわざ日本の大学ではなくアメリカへの正規留学という道を選んだのでしょうか。

- ・文理またいで学べるから
- ・多様性に触れられるから
- ・最先端の研究ができるから

といった真面目な理由を敢えて割愛すると、主に以下の2つの出来事が自分の進路決定に影響していたように思います。(真面目な理由が知りたい方は、他の素晴らしい奨学生の方々の報告書を読むことをお勧めします。)

- ・キラキラしている人たちへの羨望

私はたまたま周りの人たちに恵まれており、高校時代に英語系の大会や海外でのサマープログラムといった課外活動に誘っていただく機会がありました。そこで出会った同世代の人たちは皆英語がペラペラなのは当たり前で、中高生とは思えないほど行動力や発言力があり、そのオーラからして間違いなくこの人たちの未来は明るいだろうと思うほどでした。そして彼らに進路を聞いてみると、皆口をそろえて「アメリカに行く」というのです。その頃は「へー、こんなにすごい人たちもいるんだなあ」としか思っていなかったのですが、今となっては彼らへの憧れが後にアメリカへの切符を手に入れることになるきっかけになったのだと思います。

#### ・社会への反抗期

反抗期という聞こえが悪いですが、ふんわり言うと「このまま敷かれたレールに沿った人生でいいのか」という贅沢な疑問を持ってしまったということです。公立校であるからか、毎年私の高校から海外大学に進学する人はとても少なく、ほとんどの人は国内の有名大学に進学します。そのため、当時特にやりたいことが決まっていなかった私も周りの流れに身を任せ、国内の大学を受験するつもりでいくつかの大学のオープンキャンパスに訪れました。そしてその時、見て見ぬふりをしていた心の中の思いに気づいてしまったのです。

「大学に入ったところで結局自分が将来やりたいことなんて見つからなさそうじゃない？」もともとはやりたいことを見つけるために小石川を選んだのですが、結局忙しきのせいにして6年間自分自身から逃げていました。そんな私が大学に入って様々なことを学んだところで、結局就職活動の時にまたやりたいことがよくわからず周りに流されているだろうなと思ったのです。それなら受験期のうちに自己分析やエッセイを通して自分を理解し、専攻の選択がフレキシブルなアメリカの大学で学ぶ方が自分にとって良いのではないだろうか、と考えました。

### 3. 出願材料

アメリカの大学の入学審査官は、テストの成績に限らず様々な観点から学生を審査します。ここでは出願材料それぞれについて概要を説明します。

#### ・過去4年間の学校の成績

高校でどれくらい勉強を頑張ってきたかを示すためのものです。どれほど重要視するかは大学によって異なりますが、基本的に成績は最も重要な項目のうちの一つと言っても問題ないかと思います。私は高校で理系選択かつほぼフル単だったので、特に高校3年生の時はSATやエッセイなどの出願準備をしながら全ての授業で良い成績を保つのがかなり大変でした。休校期間中は友達と電話を繋いで勉強したり、授業後に友達に物理や化学の分からない問題を教えてもらってできるだけ家に持ち帰らないようにしたりするなど工夫し、結果としてGPAは3.8/4.0をとりました。

#### ・推薦状

大学により異なりますが、通常2人または3人の先生からの推薦状が要求されます。私は授業や部活動などでお世話になった学校の先生3人に推薦状を書いていただきました。コツは先生が比較的忙しくない夏休み前のおうちにお願いしておくことです。

### ・課外活動・賞歴

学業面だけでなく、校内外での活動を通して出願者の興味や熱心に取り組んでいることを大学側に伝える必要があります。ときどき「世界大会や全国大会の賞が無いと受からない」などという話を聞きますが、一つのことには秀でていることをアピールするのか、あるいは様々な分野のことに興味を持って取り組んでいることを示すのかは人それぞれなので、課外活動に関して正解は無いと考えています。私の場合は、主に留学を志す前から好きで続けていた活動を記入しました。無理に先輩のやっていたことを真似するよりも自分の好きなことを課外活動にする方が良いと思うので、敢えて詳しい内容は書かないようにします。

### ・TOEFL/IELTS

アメリカ国外からの留学生は基本的に TOEFL iBT などのスコアを提出しなければなりません。TOEFL の場合、多くのアメリカのトップスクールでは 120 点満点中 100 点がボーダーラインと言われています。2020 年はコロナウイルスの影響で、TOEFL iBT Home Edition という自宅で受けられる試験が多くの大学で出願の際に認められていたので、そちらを利用しました。結果として、海外受験を考え始めた高2の2学期時点では 80 点台前半の実力でしたが、最終的に 108 点を取得しました。また、高校の取り組みで高2の3学期に IELTS も受験し、7.5/9.0 を取得しました。

### ・SAT

日本でいう共通テストのような、読解力や数学的思考力を測る試験です。多くの大学ではコロナウイルスの影響で SAT のスコアの提出が任意となったのですが、スコアがあるに越したことはないということで私は提出しました。目標であった 1500 点にはあと一歩届かず、最終的に 1490 点を取得しました。コツは Math で満点を取ることです。

### ・エッセイ

最も重要な出願材料の一つであると同時に、日本の一般的な大学入試とは最も異なる項目だと思います。各大学共通のエッセイでは小論文のような形式ではなく、どちらかといえば物語のような形式で自分の人間性や考えていることを書きます。また、大学ごとに課されるエッセイではそれぞれ書くべきテーマが設けられています。どんな内容を書くか迷う人も多いかと思いますが、自分では普通だと思っていたことが他人からすると凄いことだった、なんてことが意外とあるので、信頼できる人に相談するのも1つの手です。ただ、あまり多くの人に意見を貰うと逆に自分の考えが分からなくなる可能性があるので注意です。

### ・面接

面接の有無は大学によって異なります。今年は全てオンラインで行われていました。一般的な就活の面接のような堅苦しいものではなく、会話のようなカジュアルな形式でした。

## 4. 出願スケジュール

受験期の年間スケジュールはこのようになりました。見てわかる通り同時進行でやらなければならないことが沢山ありますが、落ち着いて一歩ずつクリアしていくしかありません。

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
成績			■			■		■				
推薦状			■	■	■							
TOEFL	■	■										
SAT			■	■	■	■	■					
ESSAY	■	■	■	■	■	■	■	■				
出願						■		■				■
面接									■	■		
船井				■	書類	■	面接					
国内									■	■		

## 5. 精神面について

ここまで出願の流れを書いてきましたが、第5章では少し受験期の精神的な面について書きたいと思います。というのも、海外大学受験は特に精神面で過酷であるにも関わらず、多くの場合受験生は先輩方の輝かしい受験結果しか知ることができないからです。私は海外大学の受験がここまで大変だとは知らずにかなり苦勞をしたので、受験生の時に知っておけば良かったと思うことを2つほど述べます。

### ・ストレス解消法を確立する

受験期というと毎日ずっと勉強しているイメージがあったのですが、超人でもない限りそれは不可能です。心の悲鳴に蓋をして頑張り続けた結果、秋～冬あたりにキャパオーバーして何も手につかなくなる、といった私の失敗を繰り返さないように、自分の好きなことと勉強をバランスよくしていくことをお勧めします。（私が尊敬する他の奨学生の方々は、筋トレやチーズケーキを食べるといった素敵な趣味を持っていらっしゃるようです。）時には自分に優しく。

・他人と比べない

海外大学を目指していると、周りには自分の上位互換みたいな人が沢山いるように感じてしまうかもしれません。私も受験期は海外大の先輩や高校の同級生が凄すぎて、「自分は何もできないダメな人間なんだな」と思っていました。その上、日本の受験とは違って模試の結果などで自分の立ち位置を把握することができないため、今自分が正しい方向に進んでいるのかすらわかりません。永遠に続く真っ暗なトンネルの中を孤独に進んでいるような感覚でした。

ただ今になってわかるのは、意外と周りも同じように不安がっている、ということです。結果がどうなろうと、絶対に自分の人生にとって一番良い道になるはずなので、自分を信じて（信じることができなくてもありのままの自分自身を認めてあげて）、自分のペースで進むことができるよう陰ながら応援しています。

## 6. さいごに

この度、船井情報科学振興財団に採択していただければ、確実に留学を諦めているところでした。また、コロナウイルスの影響で先が見えない状況の中、オンライン上で人生の大先輩である財団の方々や他の奨学生の方々のお話を聞く機会を積極的に設けて下さったことで、自分の将来を考える上での大切なヒントを沢山得ることができました。財団の皆様にはアメリカの大学進学へのチャンスをいただけたことに心から感謝しております。将来は数倍にして恩返しができるよう今後も自分らしく精進して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。